

宇宙へ始まりはこの海岸

探訪 @ 茅ヶ崎

のロケットをこの海岸で飛ばしたこと

があったといつ。

海に向かって発射されたロケット。だが、途中でその先端は大きく

向きを変えた。ロケットは戻つてく

るような軌道を描き、浜辺を大き

越え、防風林に突き刺さるように落

下した。これが日本で初めてといわれる「宇宙ロケットのための火薬実験」となった。

技術者の名は村田勉博士。後に

「日本の宇宙開発の父」と言われた



「記念碑はペンシルロケットを模した棒に茅ヶ崎のイニシャルのCです」と前川義憲・ちがさき宇宙フォーラム会長が説明してくれた

糸川英夫博士らが開発し、国産ロケットの源流となつた「ペンシルロケット」の推進薬を提供した。

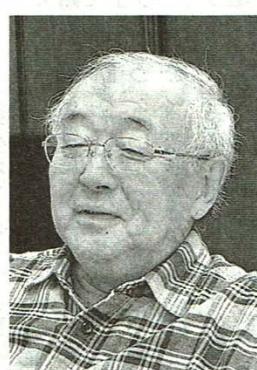
そのなかで中心的な働きをしたのが市民団体「ちがさき宇宙フォーラム」だった。会長を務める前川義憲さん(69)は「宇宙教育事業に取り組んできた土壤が、100万円という寄付を集められたんだと思います」

この火薬実験の話を、東京・恵比寿駅近くのビルアホールでジョッキを傾けながら聞いたのが、糸川博士の弟子的川泰宣・宇宙航空研究開発機構(JAXA)名誉教授(74)だつた。実験から半世紀が経つた今から30年ほど前のことだ。

「火薬の威力を知りたくてね。知

る限りでも、日本で初めての宇宙を目指したロケット実験だつただろうね」。そう話す村田博士の口調は、控えめでつましかったことを的川名誉教授は覚えている。「ロケットに関わる記念碑は全国に幾多あるけど、村田先生の、茅ヶ崎の碑がその中でも一番古いものでしよう」

日本の宇宙への挑戦のあけぼのに茅ヶ崎という地が深く関わっていたことを後世に伝えたい——。碑はそんな願いを込められ一昨年、市民の



的川泰宣JAXA名誉教授
横浜市磯子区

茅ヶ崎と宇宙——。そのつながりは深い。これまでに野口聰一さん、土井隆雄さんと2人の宇宙飛行士が輩出。そのゆかりから市民団体が「宇宙記念日」を定めたり、市が子ども向けに宇宙教室を開いたりしている。そんな茅ヶ崎と宇宙の歴史をたどりに、始まりの場所へと向かつた。

茅ヶ崎海岸は白波を立てうねっていた。浜辺に人影はない。波打ち際を辻堂方面に歩いていくと、大人の丈ぐらいだろうか、銀色の碑が視界の片隅に入ってきた。ひつそりと立つその碑には、「日本初ロケット火薬実験の地」と記されていた。

戦争の足音が近づき始めた1934年、1人の日本海軍の火薬技術者が宇宙を夢見て、一度だけ、手作り

前川さんは印象深い経験がある。宇宙少年団の子どもたちと土星を観察していた時のこと。望遠鏡をのぞき込んだ小学高学年の女の子がうれしそうに声を上げた。「ねえ、あの輪っか、腰掛けられるの?」

宇宙という世界に目を向けることによって育まれる、未知への好奇心や想像を膨らませる力。それがきっと、子どもたちの将来の財産になると信じている。「記念碑も宇宙に興味を持つ一つのきっかけになればいいですね」